

## 読売新聞就活記事：坂本章紀のエントリーシート攻略法 に関連して

上記新聞記事を過去、投稿しました。私が投稿した記事のみを読んでいるだけの人はいませんか？

上記「坂本章紀」とは、どんな人だろうと思い、検索してみました。

その結果、パソコンの画面に現れた以下の項目にアクセスしてみました。

### ○ 坂本章紀のエントリーシート攻略法；就活：教育：YOMIURI ONLINE

を開くと、上記「・・・攻略法」の過去の記事が下記のように開示されています。

- [百貨店で働く人にやりがい聞く](#)（11月26日）
- [採用側のメリット 提案忘れずに](#)（11月19日）
- [「自己満足かも」冷静にチェック](#)（11月12日）
- [努力、成果しっかり書く](#)（11月5日）
- [「問題解決」は原因、対策、成果](#)（10月29日）
- [努力の中身 分かりやすく](#)（10月15日）
- [企業に貢献 可能性PR](#)（10月8日）
- [スランプ克服 どう工夫](#)（10月1日）
- [「自律型人材」具体的な実績を](#)（9月17日）
- [ニーズに応えればOKか](#)（9月10日）
- [失敗から何を学んだか](#)（9月3日）
- [設問の趣旨からズレないよう](#)（8月27日）
- [地元ならではの志望動機に](#)（8月20日）
- [大きく見せると「言い過ぎ」に](#)（8月13日）
- [エピソードを差別化しよう](#)（8月6日）
- [手段に加え目的到達度を](#)（7月30日）
- [「継続性」アピールで好印象](#)（7月23日）
- [「動機」と「実現したいこと」の違い](#)（7月16日）
- [盛り込む要素 絞り込んで](#)（7月9日）
- [学業重視する企業増加](#)（7月2日）
- [その企業に貢献できることを](#)（6月25日）
- [「頑張り」の目標 ぜひ書いて](#)（6月18日）
- [自己PR 実体験を具体的に](#)（6月11日）
- [「強み」PR 具体的な根拠必要](#)（6月4日）
- [企業の魅力 自分の言葉で](#)（5月28日）
- [リーダーとしての視点](#)（5月21日）
- [見た目 読みやすく](#)（5月7日）

- [1度読めば分かる文章](#) (4月30日)
- [等身大の自分で行こう](#) (4月23日)
- [その後の話で説得力](#) (4月16日)
- [読み手の視点に立って](#) (4月9日)

(コメント1)

上に4月9日以降の記事の見出しが示されています。

それぞれの記事の内容は個別に確認するとして、この見出しのみを眺めると、これらはまさに「エントリーシート作成の要点」であると云えるのではないのでしょうか。

ここで、著者が就活コンサルタントであることが分かりました。さらに彼の著書として、以下が確認できました。

- ・「これから就活を始める君たちへ」(日経新聞出版社、840円、2009年9月刊)
- ・「坂本流「就活」の教科書 ー普通の学生が逆転内定する方法」(日経新聞出版社、1365円、2011年12月刊)

### ○ 就職コンサルタント坂本章紀さん 日経をヨクヨムためのナビサイト

を開くと、日経リアルタイムの就職ガイドなる動画において、坂本氏が5分程の日経新聞の活用法を陳べています。新聞を読むことで

1. 自分を知る
  2. 企業・業界を知る
  3. 仕事相手を知る
- ことが出来、就職に役立つというもの。(詳細は自身で確認してみてください)

### ○ 内定が取れない学生が気づくべき“勝ちパターン” | ニコニコニュース

を開くと、Q&Aのようなものがありましたので、一部切り取り示しました。

—何か月も就職活動をしているにもかかわらず、内定がもらえないという学生にアドバイスをするとしたら、どんなことを話しますか？

坂本「月並みなアドバイスですが、まずは、諦めずに続けて下さい。

私は今まで、何千人と就活生のサポートをしてきましたが、なかなか内定がもらえず大苦戦した学生が最後の最後で一発逆転したケースをこれでもかと言うほど目の当たりにしてきました。本当に、最後の最後まで諦めずに頑張った人は、殆ど結果を出します。そして、もしも万が一希望に沿う結果が出なくても、最後までやり切った人は社会に出てから必ず挽回してくれます。

「勝つまでやれば、負けはない」

過去に私が就活サポートした学生さんが、身を持って教えてくれた言葉です。

もう一つ、“自分スタイル”を確立することをお勧めします。なかなか結果が出ない学

生さんによくある傾向が、「どうすれば内定が取れるか？」という“正解を求める姿勢”になっているのです。その為、一生懸命誰かのやり方を真似したり、どこかに書いてあるようなことをアピールしたり、とにかく“他人スタイル”を取り入れようとします。その姿勢から、「一人一人、勝ちパターンは違う」ということに気付き、“自分だけの勝ちパターン”を模索し、気付き始めると、結果が出てきます。

まさに、“自分スタイル”で戦う状態です。みんな顔も違うし、名前も違う。だからこそアピールすべきポイントも違うし、活躍の仕方も違って当然。就活の結果の出し方だって千差万別です。

“借り物の自分”から“本物の自分”にシフトすることが最大かつ最強の就活対策だと思います」

#### —最後に、読者の方々にに向けてメッセージをお願いします。

坂本「皆さんにとって、「働く」とは何ですか？「仕事」とは何ですか？もしくは、「生きる」とは何ですか？

仕事をし、働くことにより私たちは「不安」を感じます。もしくは、生きているだけでも「不安」を感じます。

その不安と向き合うということは、取りも直さず、自分の「仕事」や「生きること」と向き合うことなのだと思います。是非とも、本書をきっかけに、“自分自身”としっかりと向き合ってみて下さい。

不安をきっかけに“自分のあるべき姿”を明確にして、“本来の自分の持つ輝き”を取り戻し、“充実した人生”を送って下されば幸いです。

本書を読んでいただいた皆さんの人生が、少しでも前向きになり、少しでも希望と可能性が広がることを切に願っております」

(新刊 JP 編集部)

2013年12月4日 井田晃記

#### (コメント2)

この記事を書いたのは、先日来投稿している「エントリーシート攻略法」の記事を眺めたとき、記事の表題に冠せられている「坂本章紀」が気になり、検索を試みたことが発端です。

「気になり（関心をもつ）・・・調べる」作業は、これから学生諸君が経験する「卒論」や「研究」などにおいて、テーマに沿った関連の事項や参考文献を確認する作業と通ずるものがあるといえます。

記事を表面的に流し読むだけでなく、いま一步深く情報を掘り下げ把握しようとする姿勢が、より拡がりと厚みのある結果を得るのに大切ではないでしょうか。